

序章 調査概要

■目的

複数の半島地域間の連携・協働を通じて、地域間共通の資源活用や課題への対応、地域主体間の人的ネットワークの拡大強化を図り、半島の自立的発展の基盤形成を促進する。

■事業内容

- ①半島間連携チャレンジプロジェクト:複数の半島間の連携・協働による事業実施。
- ②施策効果検証:上記事業の成果検証及び有効な半島間連携のあり方の考察。

第1章 半島間連携の可能性検討

1. 半島間・地域間連携の経緯と実績

■半島振興事業での経緯

- ・地域づくりに関する情報や助言、他のネットワークとの交流を得にくい環境
→活動の停滞・縮小、閉塞感等
- ・近年の半島振興事業を通じた半島の活動人材同士の出会い
→互いの知見・情報交換を通じた学び、意識向上、新規事業創出に発展する有益なネットワークを形成

2. 半島間連携の成立可能性

■半島間連携の有効性の仮説

- * 地域資源・課題の共通性にもとづく知見・情報の相互提供、掛け合わせ
- * 自地域にない資源・知見の移転
- * 単独取組を効率化、付加価値向上する共同行動

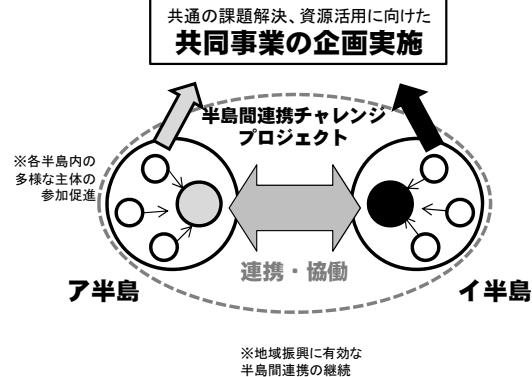
■本事業で創出する連携パターン

A:「協働アクション型」

地域・団体の強み・特徴を活かしたコラボレーションの実施

B:「交流マッチング型」

連携先が未確定のため、第三者による連携相手の紹介・調整(マッチング)を経て、事業に取り組む



第2章 「半島間連携チャレンジプロジェクト」実施報告

1. 「半島間連携チャレンジプロジェクト事業」概要スキームと実施支援対象

《地域意向に応じたコース設定》

- ①協働アクションコース
- ②マッチングコース

《事業テーマ設定》

- ・食
- ・観光
- ・防災
- ・その他

協働アクション4事例

- ①渡島ー津軽ー下北ー男鹿
- ②幡多ー津軽ー京丹後ー薩摩
- ③紀伊ー南房総
- ④島原ー宇土天草

2. 実施概要と成果

	①4半島発掘！相互交流で菅江真澄ツアーリズム開発プロジェクト	②限界集落30年の計一次世代の半島へのバトンプロジェクト	③千葉・和歌山 両勝浦のニューフィールドの創造プロジェクト	④半島を渡る子どもたちプロジェクト2012
実施内容	江戸時代の紀行家、菅江真澄をモチーフに各半島で地域づくりに取り組む団体、人材間の交流を進め、半島同士で協力し支え合うコラボレーションの可能性を探った。	幡多地域の黒潮町橋川地区を検証フィールドに、次世代に地域をつなげるための集落維持・活性化に資するヒントを、知見を有する地域リーダーたちととりまとめた。	「南紀勝浦ひなめぐり」イベントを通じ、那智勝浦町と千葉県勝浦市との交流を通じてイベントのノウハウを学び合うほか、連携により新たなマーケットの創造について検討した。	地域資源を活かした体験交流を通じ、次の世代を担う子どもたちに、半島の本物の豊かさや魅力を体感してもらい、半島に誇りを感じる機会を提供する。また活動を継続できる仕組みについて検討した。

第3章 「半島間連携チャレンジプロジェクト」検証

事業成果	・着地型ツアーを定番化できる条件が揃った。 ・地域資源が増え、多様な着地型ツアーづくりの手法を構築できた。	・集落の維持・活性化に、地域外の活力を活用する方策を共有・整理した。 ・各地に外部の視点が入ったことで、地域の特性・可能性の再発見、新たな取組に対する意欲的な提案を促した。	・イベント協力を契機に、観光・物産など民間同士の協働、歴史・文化的つながりの活用など新たな交流の可能性。 ・官民連携による地域づくりを勝浦市から学び、官民一体の交流を展望。	・事業主体として基本理念、活動方針を明確化。 ・地域行政、観光協会、ジオパーク等と連携が生まれ、継続的な取組に向けて次年度以降の活動計画を整理有できた。
------	--	---	---	---

本事業スキームの成果と意義	<ul style="list-style-type: none"> ○つながりを通じて相互の課題解決、自立的発展を支えあう「共助」のモデルを提示。 ○半島の活動、人材同士が直接つながり、互いに必要な支援や資源を提供しあう水平型のネットワークを構築。活動人材同士の信頼関係や顔が見える関係性に根ざした動きであり、人材への共感や信頼を介して、他の事業・領域への拡がり、継続性につながっている。 ○既知の間柄での連携だけでなく、未知の活動、人材間の出会い・交流から新しい交流・協働事業の創出につながることを課題。 ○地域活性化のインパクトを高めるためには、共通テーマにもとづき、地域内外の多様な組織・人材、既存の活動との連携・協働にも拡げることが必要。
半島同士の交流連携の意義	<ul style="list-style-type: none"> ○既知の関係、枠組みの中では得にくい新しい知見や刺激を得て、活動の活性化を図れる。 ○活動人材にとって、知見、情報の獲得とともに、活動への意欲など精神的な支えとなる社会関係資本(ソーシャルキャピタル)の機能を果たす。 ○観光やインフラ整備等との一体的な取組を図り、多様な領域・階層での連携を構築することが重要。
半島間ネットワークの発展に向けた展望と促進方策	<ul style="list-style-type: none"> ○さまざまな領域・階層において、活動を活性化するための新たな知見や刺激、課題解決力を相互に与えあう関係として、半島間のネットワークの構築・発展を図り、半島の自立的発展を支えるソフトなインフラとして強化していく。また、個々の半島の知見が半島全体の知見として活用され、半島全体の振興に資することをめざす。 ○そのため、引き続き半島間の交流・連携を促進するとともに、半島各地の知見、情報等を集約・共有でき、新しい交流・協働の創出を促す開かれたプラットフォームを形成することが望ましい。